

2 わたしたちのまちの特色

篠原地区は、菊名・富士塚・篠原町・篠原西町・仲手原・篠原台町・篠原東の7町からなり、12の自治会があります。

地区の東部に東急東横線、北部に横浜線、西部に市営地下鉄の駅があり、特に横浜の陸の玄関、新横浜駅に隣接しているなど、比較的交通便利な地区です。



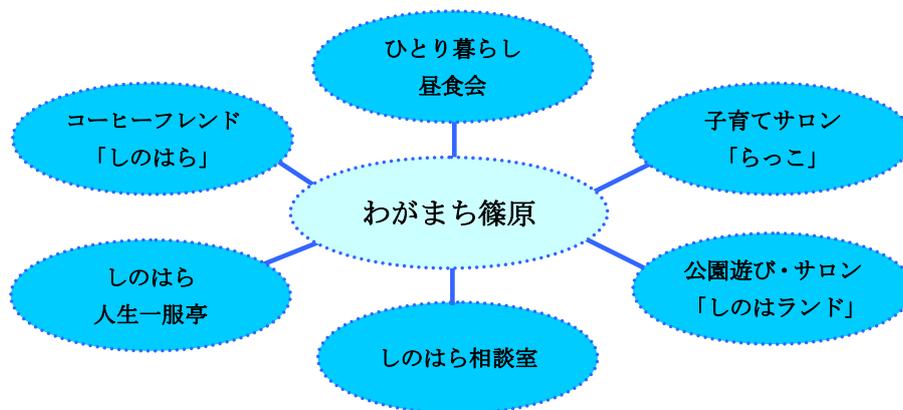
土地は起伏に富み、細い道も多いですが、緑が多く、環境の良いところが自慢です。

住民を年齢別にみると、25歳から40歳までが大きな山を、次いで45歳から60歳までが小山をなしており、高齢化率は20.2%で区平均と比べると若干高い程度に見えますが、絶対数は多く、1人住まい、2人住まいの高齢者が多くなっています。高齢者は、将来さらに増える見込みです。



傾斜地の公園（篠原町会下谷第二公園）

住民には比較的意識の高い人が多く、ボランティア活動も活発で、地域での子育て支援、高齢化への対応など取り組みが活発ですが、高齢化に伴って担い手を拡大し、各活動を横つなぎする必要性が強まってきており、特に若い人や、男性の活動参加が望まれています。



3 これまでの頑張り

篠原地区では、各自治会や種々のボランティア団体によって、既にいろいろな福祉メニューが取り組まれてきています。各町内会館でミニデイサービス、育児サークルが活発に行われています。そのような背景の中で、第1期計画では、「交流」「ボランティア」「安心・安全」「相談・情報」という4つの分科会を中心に活動しました。

「交流」では、お花や野菜の販売をきっかけに、施設間・団体間の交流や、活動のネットワーク化、異世代の交流が始まっています。

「ボランティア」では、やってほしいことや、参加する意向についてのアンケート、「安心・安全」では、非常時における高齢者のニーズと、支える人を集める方法についてのアンケートがそれぞれ実施され、ボランティア活動や、支援活動の必要性や要望が明らかにされてきています。

5 わたしたちのまちの取り組み

篠原地区では、既にいろいろな福祉メニューに取り組んでいます。そうした中で、第2期は、個々で行っているメニューを更にネットワーク化すること、既に行っているものをつなげ、ひろげていきます。

そのため「ひっとプラン港北」の3つのキーワード（ひろがる、つながる、とどく）に対応して、つぎのような具体策を掲げます。

キーワード		取組	
		目標	具体策
ひろがる	理解	●子育てサークルと地域ミニデイとの交流を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 自治会町内会の状況に応じて、可能な開催方法を検討します。 開催場所を検討し、増やします。
	担い手	●ボランティアの交流を図り、新たなボランティアの可能性を広げます。	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、ボランティア講座を実施します。 男性ボランティアや、高校生のボランティアなどを増やします。
つながる	知る	●障がい児の居場所づくりを行います。	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児への理解を深め、居場所づくりから検討を始めます。 学校とも連携し、具体的活動方法を検討します。
	活動	●地域活動の更なるネットワーク化を検討します。	<ul style="list-style-type: none"> 各自治会や各団体の活動を尊重し、ボランティアの交流や、連絡協議会の設置など、横の連携を検討します。
とどく	情報	●ホームページを活用します。	<ul style="list-style-type: none"> 地域団体やサークルの活動予定や活動報告を紹介します。 リポーターを探します。 情報量を増やし、充実させます。
	発見 早期	●安心・安全のため、要支援者を把握し、非常時のための支援活動を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 災害時のあんしんカードを検討し、1地区で具体的な形にします。

6 ふり返りの仕方

策定委員会を篠原地区地域福祉保健計画推進委員会に改組して、定期的に活動をふり返し、推進体制や具体化に向けた進め方などを検証します。あわせて目標と具体策に沿って進行管理・推進を行います。

引き続き、各分科会を概ね2か月に1回開催します。

・「わがまち篠原」策定委員会：

委員長 川島武俊（篠原地区連合自治会長）

・問合せ先：港北区福祉保健課（540-2360）

港北区社会福祉協議会（547-2324）



防災訓練



ウォーキング